

岡山支店を開設し市場を拡大へ

ピユアハウスシリーズで分譲住宅展開

ファミリーホーム(株)

高品質低価格のピユアハウスシリーズを展開中のファミリーホーム(株) (本社 高松市林町二五七九一五 千田善博社長)は、7月17日付けで岡山支店(牛尾勇雄支店長)を開設した。

同社は、日進堂グループ企業の1社。岡山支店の所在地は、岡山市北区辰巳四四一〇一で、岡山市内から西方向に位置する。

開設した目的は、岡山は瀬戸大橋を渡れば四国他3県よりも至近距離にあることや、テレビCMにしても香川・岡山両県民が見てもらえることもあり、以前から拠点を構えたい思いはあった。

岡山エリアは開設以前から宅地分譲を進めており、今年で二年半になる。倉敷市の分譲タウン「ピユアタウン玉島」の販売然りで、既に10棟の販売実績を持つ。

ピユアハウスシリーズは良い商品を安く提供することをコンセプトに、若い世代でも購入しやすい価格設定にしている。

土地取得に関しては競売物件を中心

心に動いており、良い物件を見つけ分譲展開していく姿勢で、今は倉敷市内を中心に展開している。

今回岡山支店を構えたが、岡山県内という枠にはこだわっておらず、良い物件や候補地があれば広島、山陰にも積極的に手を伸ばしたいとしている。



千田社長

牛尾支店長

来賓として挨拶に立った香川銀行伏石支店の金岡支店長は、「住宅環境は厳しさを増しているが、ファミリーホームは着実に歩んでいる。」

香川の住宅業界の牽引役としてさらに存在感を増すよう頑張るって欲しい」と語った。

岡山支店としては、年間30棟の建築目標を建てており、33歳の若き牛尾支店長に采配が託されることになった。スタッフは、牛尾支店長以下3名体制で運営に当たる。

17日夜には、岡山市内のホテルにて開設披露パーティーが挙行された。

会場には銀行関係者、協力業者を含めて34社、40名が出席した。

また岡山の地元業者は、「グローバルという言葉がある。これはグローバルな視点でローカルの良さを出すという意味がある。ファミリーホームも岡山においても、グローバルな住宅を建てて欲しい」と要望していた。

披露パーティーは、和気藹々のなか進み、出席者全員はファミリーホームの前途を祝していた。

〇八六―八〇五―〇〇〇三

岡山総社に全国規模の大型レジャープールあり

昨年12月から心機一転運営を再開した民間保養施設「サントピア岡山総社」(岡山市総社市泰二二一五 清水良一支配人)。

運営母体はと言うと、ご存じ高松の大洋開発(株)(高松市観光通 樋口高良社長)である。

今年7月17日には、付帯施設である全国規模の大型レジャープール「ウォーターパークWAPS」がオープンした。

同プールの規模は半端ではない。全長約130m、5階から滑り降りるような大迫力を楽しめるウォータースライダー、全長30mのストレー



トスライダー、全長90mでゴムボートに乗って滑るリバライドスライダー、そして一度に6人が滑り降りれるロックマウンテンスライダーなど4種の大型スライダーが遊びの輪をグンと広げている。

東は岡山市の境から、西は福山市から遊びに来るそうで、家族連れや友達同士での利用が多く、お盆のピーク時は四千人の来場客で埋まったこともあるそうだ。

これからハイシーズンを迎える同レジャープールだが、香川から瀬戸大橋を渡っての所用時間は僅か1時間半。総社の観光を兼ねかつ安近短のレジャー施設として活用を訴えている。

因みに料金は大人1500円、中・高生千二百円、小人750円。

一方本施設「サントピア岡山総社」の稼働も順調で、特に宴会は総社市とも連携し伸びていると清水支配人は言う。昨年対比で1500〜200%の利用と好調。

宿泊も関西方面、四国からも多くなった。ただ宿泊客を増やすには、やはり旅行エージェンツの協力が不可欠と捉えている。

またスポーツ施設で新規にランドゴルフに取り組む方針で、自然の芝を使った8コースの整備を進め9月オープンを目指している。

サンポート高松のマリタイムプラザ高松1階に「海の市場」が7月19日オープンした。期間は10月31日まで。瀬戸内国際芸術祭関連グッズのみならず、果物、畜産加工品、水産加工品、さぬきうどん、銘菓、伝統工芸品等の県産品が一堂に大集結した。